

錦鯉のこと、

もっともっと知りたい！

Nishikigoi
newsletter

vol.5

「錦鯉を身近に感じてもらうために」

◀ index ▶

1. 錦鯉水槽内をレイアウトして楽しもう
2. 【錦鯉・金魚アクアリウム in ときメッセ 水中の夏祭り】は来場者数7万6千人超え！
3. クラウドファンディングご支援ありがとうございました！
4. マーケティング視点でひも解く錦鯉の世界 5. もっと身近に錦鯉！

錦鯉水槽内をレイアウトして楽しもう

錦鯉にとって快適な泳ぎやすさを第一に考えつつ、
四季を感じられるレイアウトをいくつかご紹介いたします！

錦鯉を水槽で飼育する際、底砂を敷かない「ベアタンク」方式は、掃除がしやすく水質管理もしやすいことから、多くの飼育者に選ばれています。シンプルな水槽は、錦鯉の成長や体色の変化がよく観察できるのも魅力です。一方で、水槽に石や流木、造花などを配置すれば、季節感のある華やかな演出ができ、鑑賞性もぐっと高まります。「管理のしやすさ」と「見た目の楽しさ」の両立こそ、錦鯉飼育の醍醐味です。

春



夏



秋



冬



錦鯉も底砂をはじく・つつく行動をよくするので、大きめの砂利を薄く敷いたり、レイアウトにおもりをつけて固定してあげる方法もあります。

特殊加工の造花などは水質に影響が出たりするので、一晩バケツなどで水につけて問題ないことを確かめると安心です。

錦鯉・金魚 アクアリウム

in ときメッセ
水中の夏祭り
2025.8.1-8.24

【錦鯉・金魚アクアリウム in ときメッセ 水中の夏祭り】は
累計来場者数7万6千人超え！

8月1日～24日開催された本イベントは、錦鯉と金魚の魅力がたくさん詰まった大盛況のイベントとなりました。迫力満点大型サイズの錦鯉からJAS規格21品種ごとの展示など、美しさはもちろん誕生の歴史や農業との関わりを知り、養鯉産業への理解が深まり学びの場となるイベントでした。

THANK YOU



クラウドファンディングのご支援ありがとうございました！

この度は、私たちのクラウドファンディング「錦鯉 × 学び舎 = 未来の地域文化をつくるプロジェクト！」に温かいご支援をいただき、誠にありがとうございました。本プロジェクトは、目標金額160万円に対し、最終的に12万6千円のご支援をいただき、無事に終了いたしました。目標には届かなかったものの、皆さまから寄せていただいた励ましの言葉やご期待の気持ちは、私たちにとって大きな力となりました。いただいたご支援は、10月24日に行われます桃山小学校での出前講座での活動費および、11月に新たな小学校への錦鯉水槽の移動等に要する費用として大切に活用いたします。皆さまのご支援が、子どもたちが錦鯉とふれあい、地域文化を学ぶ貴重な機会となります。当協会では、今後も水槽の台数を増やし、より多くの小学校へ錦鯉水槽を広げていく活動を続けてまいります。引き続き見守っていただき、ご協賛やご紹介などの形で応援いただけましたら幸いです。



NISHIKIGOI
AQUATIC MANAGEMENT ASSOCIATION

— マーケティング視点でひも解く錦鯉の世界 —

錦鯉の魅力をビジネスや経済の視点でお伝えします。



専務理事（長岡大学准教授）
百合岡 雅博

第三弾 錦鯉・金魚アクアリウム in ときメッセから見た錦鯉への期待

2025 年 8 月、新潟で初開催された『錦鯉・金魚アクアリウム in ときメッセ』には、多くの来場者が訪れました。私も期間中に 2 回訪問し、光と音を取り入れた、これまでにないアート視点の水槽演出を楽しませていただきました。

この会場を訪れた多くの方が、驚いたと思います。アクアリウムをそのまま和訳すると「水族館」が一般的な意味で、なかには、水草や石などを配置して景観を楽しむという「水景（すいけい）」という意味もありますが、それらいずれの言葉の意味もはるかに上回るものでした。

会期 24 日で累計約 7 万 6 千人もの人が来場したと公式発表されましたが、ときメッセでこの期間に開催されたさまざまなイベントのなかで最も多くの来場者を記録したのではないかと思います。



このような記録を達成した理由を振り返ると、特別な演出を見られることが一番だと思いますが、それと同時に、錦鯉や金魚という、日本人にとって身近な魚への関心にもおおきく影響したのではないかと考えます。

新潟県の産地のひとつである小千谷市では、錦鯉を地域活性化の資源として産業や観光に活用する動きがあり、観光ルートの整備もすすめられています。今回のイベントのように新しい楽しみ方を発信することで、「特別な魚」とい

うイメージから、「好きに楽しむことのできる魚」に錦鯉のイメージを転換できると考えました。

水槽のなかで泳ぐ魚に対する価値の転換は、単なる演出効果だけではなく、文化的な象徴である錦鯉を再定義でき、地域社会における資源活用の可能性の拡大が期待されます。そして、観賞魚だけではなく地域の文化は発信する新しい表現方法として、多様性が拡大していくという意味からも重要な意義を持ち始めるように思います。



写真提供元：株式会社アクアリゾート

今回は「月刊錦鯉様」の最新号からお届けします。

今回の最新号
2025 年 10 月号 !!

本誌 P48 ~ 51 より

農林水産省 こども霞が関見学デー開催

「錦鯉の審査体験と変わりメダカの展示」

文部科学省をはじめとした 29 の府省庁等が連携して開催される「こども霞が関見学デー」が 8 月 6 日（水）・7 日（木）の 2 日間にわたって行われ、多くの親子連れで賑わっていた。2000 年から始まった本イベントは、子どもたちに各府省庁の業務や活動を知ってもらい、親子のふれあいを深めながら社会を広く学ぶ「体験活動の機会」としての役割を担っている。農林水産省では食や農林水産業について幅広く学べる 45 のプログラムを企画。同省のトップである小泉農林水産大臣が会場を訪れ、子ども達と間近で触れ合っていた。今回で 6 回目の参加となる（一社）全日本錦鯉振興会は「錦鯉の審査体験」と題し、長年開発を進めてきた AI による錦鯉評価システムを、ゲーム形式で楽しく体験できるプログラムを用意。



子どもたちとふれあう
小泉進次郎農林水産大臣

事前に AI で順位付けされた 3 匹の紅白が丸プールに泳ぎ、来場者は色・模様・体系・バランスといった要素を考えながら観察し、1 位～3 位の鯉を予想していく。審査体験には 2 日間でのべ 778 人が参加し、その人気の高さがうかがえたが、全問正解は 6 人と難易度は高かった。

また、審査体験と同じくらい好評だったのが「錦鯉のポストカード」だ。絵柄と色味の異なる 4 つのスタンプを押すことで紅白・昭和・白写りなど、自分好みのポストカードを作ることができ、特に子ども達は楽しみながら取り組んでいた。



スマホを使った
錦鯉の審査体験



スタンプで作る
オリジナル錦鯉
ポストカード

もつと身近に
錦鯉！

【お問い合わせ先】 TEL 025-282-7201
MAIL info@nishiki-goi-adviser.or.jp
新潟県新潟市東区空港西 1 丁目 15 番 8 号
（運営 / 株式会社アクアリゾート 担当 / 塚田）



NISHIKIGOI
AQUATIC MANAGEMENT ASSOCIATION